

● 認知症の進行と主な症状・支援の例 ●

*症状の現れ方には個人差があります。

認知症は少しずつ進行し、症状が変化していきます。家族や周囲が認知症を理解し、進行に合った対応が大切です。

軽度認知障害(MCI) (認知症疑い)		認 知 症		
		見守りがあれば日常生活は自立できる	手助けや介護があると安心	生活全般に介護が必要
本人の様子 の例	物忘れは多少あるが、金銭管理や買い物など、日常生活は自立している。	<ul style="list-style-type: none"> 頭の中に霧がかかったような感覚になる 約束事が思い出せない 物事が覚えにくい やる気がでない 不安が強くなる 「物を盗まれた」などのトラブルが増える 失敗を指摘されると怒り出す 	<ul style="list-style-type: none"> 徘徊が多くなる 妄想が多くなる 興奮状態になりやすい 着替えや食事、トイレがうまくできないことがある ついさっき言ったことを忘れる 時間や場所が分からなくなる 	<ul style="list-style-type: none"> 表情が乏しい 尿や便の失禁が増える 寝たきり状態で、介護者との意思疎通が難しくなる 家族の顔が分からなくなる 普段使い慣れた道具が使えなくなる
	<ul style="list-style-type: none"> いつもと違う、何か様子がおかしいと思ったら早めに地域包括支援センターに相談する。 ⇒家族の「あれ？」という気づきが早期発見、早期治療に繋がります。 地域行事やボランティアなど、社会参加を促す。(認知症予防に繋がる) 家庭内で継続できる役割を持ってもらう。(例：ご飯を炊く、洗濯物を畳むなど) 	<ul style="list-style-type: none"> 接し方の基本やコツなどを理解する ⇒認知症サポーター養成講座(P10)がおすすめ 家族間で介護のことについて話し合う 介護で困った事があったら、抱え込まずに早めに相談(P7.8) 要支援又は要介護を受けている場合は、担当ケアマネジャーに相談する。 	<ul style="list-style-type: none"> 介護の負担が増えるため、早めに担当ケアマネジャーや地域包括支援センター(P7)へ相談。 必要に応じて、介護サービスを利用する。 介護者は自分の健康管理を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活で出来ないこと(食事・排泄・清潔を保つ等)が増え、合併症を起こしやすくなることを理解する。 どのような終末期を迎えるか家族間で話し合っておく。
地 域	正しく知る：認知症サポーター養成講座、認知症サポーターステップアップ講座			
	コミュニティ：認知症カフェ、認知症の人と家族の会			
	相談：地域包括支援センター（認知症初期集中支援チーム）、成年後見制度、福祉サービス利用援助事業、認知症の人と家族の会			
	見守り：認知症みまもりねっと、見守り協力機関、GPS 貸与			
医 療	かかりつけ医：健康なうちから健康相談ができる体制を確立しましょう。			
	病院：認知症の診断や治療を専門とします。(P11.12 参照)			
介 護	居宅介護支援事業所(ケアマネジャー)：介護が必要な方の状態に応じて、介護保険サービス等の利用を支援する人です。			
	介護保険サービス：訪問型、通所型、入所型、生活環境を整備するサービスなど。詳細はご相談ください(P7)。			